

風のように

甘木教会

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一



すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。 マタイ 14：16

【説教要旨】

高校生のとき、泳ぎが出来ない生徒を夏になると泳げるまで実習を受けるという授業がありました。私は病気のためにいつも体育は見学でしたから、この実習を受けられず、いまだにほとんど、泳げません。

福岡に来て、大分に向かう途中で竜門の滝という案内板を見つけました。懐かしい記憶が蘇ってきました。児童養護施設の牧師をしていたとき、毎年夏、大分で有名なキャンプ場の竜門の滝で、キャンプをしていました。ある年、滝つぼの足の届く浅瀬で泳いでいたのですが、職員が「牧師先生、そこは深いで」と言われたとたんに溺れそうになった記憶が蘇ってきました。どうしても自分が水に身を任せ、水に自分を支えてもらおうという気になれずいました。



人は自分の足で立てるときはいつでもできているのではないのでしょうか。しかし、いつも自分の足で立てるとは限らない。自分の足で立てないような困難さに出会うことがあると思います。

しかし、私たちの傲慢さゆえに自分が蒔いた種で、困難さの中で足掻くのですが、たとえ、傲慢なさが引き起こした困難さの中にあっても実は神の慈しみのうちに繋がれているのです。

今日の福音書の物語は、そのことを私たちに教えているのではないのでしょうか。

舟は既に陸から何スタディオンか離れており、夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。

逆風のために波に悩まされていた弟子のところ、イエスさまの方からやってこられる。「救いはいずかたよりきたるか」という讃美歌があります。救いは「きたる」ものなのです。問うた信仰者がいる。救いは私たちのところにはない。イエス・キリストの中にあるのです。

嵐から助けられたペテロは、「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」と願い主のもとに行こうとする。主イエスご自身も「来なさい」と答えてくださる。試練のうちに、困難のうちにいる私たちを招いてくださる。私たちはいつもイエス・キリストに繋がっている。接木されている存在です。接ぎ木された私たちがいる。それは神の慈しみに接木された私たちがいるのです。この慈しみは神からやってくる。私たちのところにはないのです。

イエス・キリストにつながれている、神の慈しみに繋がれている私たちは大胆な行動にでることができます。

ペテロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。

なぜならイエスのもところすべての基があることをペテロは知っていた。「イエスの方へ進んだ。」とあるように私たちが進むべきところはイエスのもとです。

しかし、「強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ」とあるように彼は信頼しきれなかった。強い風、それにともなう波の大きさ、彼は見えない力の前で負けそうになる。沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだペテロにイエスさまはすぐに手を伸ばして捕めた。イエスさまに任せられないペテロ、過ちを幾度も犯してしまうペテロ、どうしようもないペテロであっても、イエスさまはすぐに手を伸ばして捕えてその繋がれた手をはなさない。

いやつながれた手をこちらか離そうとするとすぐに手を伸ば

して捕たえてくださるのです。

この憐れみに満ちたもうお方が共に私たちといてくださる。インマヌエル、神がともにいてくださるのである。私たちはこのことを見逃さないようにしたいのです。

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」ということが常に私たちの人生にうちに起きるのです。

良寛さんがその人生を「うらを見せ 表をみせて ちる紅葉」というようにくくった。ペテロが怖くなった風に良寛は身をまかせた。風に自分が支えられた。信仰者のいきつくところはまさにこのように「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」という方に自分を委ね、信頼していくことです。

イエスさまに委ねること、信頼することこそ、ペテロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだという大胆な行為が起きてくるのだと思います。冒険ができてくるのです。しかし、一旦、イエスさまに委ね、信頼しても、「強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ」とあるように信頼しきれない自分がいます。

しかし、安心しましょう。すぐに手を伸ばして捕えてくださるイエスさまの手が私たちの目の前にさしだされます。

水泳は、水に委ねてこそ泳げるように、自分の人生においてはイエス・キリストに委ね、信頼して歩む信仰において、大胆に水の上すら歩めるような大胆な冒険をできます。

イエスの方へ進んだとあるように自分の歩みがいつもイエスに向かって歩みだすとき思いもよらない大胆な世界を歩むことを私たちは示されています。

イエスの方に向かって進む限り、安心です。

ルターが、「あなたが恵みの説教者であれば、作り物の恵みではなく、本物の恵みを説教しなさい。もしそれが本物の恵みであれば、作り物の罪ではなく本物の罪を負いなさい。神は作り物の罪人を救われはしない。罪人でありなさい。大胆に罪を犯しなさい。しかし、もっと大胆にキリストを信じ、喜びなさい。」と言われたように行きましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

世も末



現代社会は、「世も末」と思わせる出来事が起きている。強国は小国を責め、そしてその国の指導者は経済的利益を得ることが露骨に見えてくる。そういうことに私が苛立っているとき、聖書の言葉に出合った。

沈黙して主に向かい、主を待ち焦がれよ。繁栄の道を行く者や悪たくみをする者のことで苛立つな。怒りを解き、憤りを捨てよ。自分も悪事を謀ろうと、苛立ってはならない。悪事を謀る者は断たれ。主に望みをおく人は、地を受け継ぐ。しばらくすれば、主に逆らう者は消え去る。彼らのいた所を調べてみよ、彼らは消え去っている。詩篇37：7～10

今は、「沈黙して主に向かい、主を待ち焦がれよ。」というように「待つ」ときだと立ち換えさせられた。

しばらくすれば、主に逆らう者は消え去る。彼らのいた所を調べてみよ、彼らは消え去っている。

希望をもって、今日、すべきことをする。この時だと導かれている。

園長・瞑想？迷走記



研修会で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について勉強をしたと聞く。今更と思いつつ、この頃、幼少連携ということがうるさくいわれるようになっている。

そこで、私たちが大切なことは、キリスト教教育、保育に立つとき、これをどう受け止め、どう私たちだったらするかということであり、私たちのキリスト教幼児教育・保育はどのような姿であれば良いのかということをもう一度考えてみるという世からの挑戦ではないだろうかと思う。

これは楽しい作業だと思う。丁寧に、丁寧にもう一度キリスト教育・保育とは何かということを出す時がきたように思う。

日毎の糧

聖書： わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます／御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に／彼らが愚かなふるまいに戻らないように。

詩篇85：9



ルターの言葉から

主は私たちの中から「悪魔の仕業、罪、死、嘆き、恐れ、あらゆる不幸」を消し去り、その反対である「希望、正義、忍耐、喜び、平和を生み出してください」(「宝石箱」)

神の属性 忍耐

「この詩（85篇）は、神の約束のもとに地上を歩む神の民の姿を示す。神の赦しの下に立ちながらも、なお現実の戦いの中に神に願い求めつつ、終わりの日を待ち望んで、我々は日々進んでいくのである。われわれの過去、現在、将来がここにもある。」（「詩編注解」 関根正雄）

8月6日、広島原子爆弾投下、8月9日、長崎の原発投下、8月15日、敗戦と日本にとって、特別の歴史の日々である。

「わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます」と日本は敗戦後、日本近代史にはめずらしく80年間、平和の中を歩んで来た。今、大国、特にロシア、中国、アメリカの覇権主義によって世界の平和は不安定になりつつあり、日本の平和も怪しくなりつつある。「御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に／彼らが愚かなふるまいに戻らないように。」ために神は平和を下さったのにもかかわらず。愚かなふるまいに戻っているしかし、「正義は御前を行き／主の進まれる道を備えます。

85:14」困難なことが今、横たわっているが神は前進されています。希望をもって平和を作り出す人は神の子と呼ばれるというイエスのみ言葉を心に刻み、神の子として平和を作り出していきましょう。

参考文献：詩編注解上下

関根正雄 教文館

祈り：平和が脅かされる現代です。神の子として強く平和の実現のため祈り汗をかけるものでありますように。アーメン。

甘木通信

「善人すぎるな、賢すぎるな。・・・愚かな
すぎるな」 コヘレト7：16—17



「過ぎたるは及ばざるが如し」という論語の言葉がある。程度を超えると不足していることと同じだと言うことである。ほどほどにということである。孔子の中庸の徳を言い表す言葉である。

コヘレトの言葉と論語がつながっていくように知恵文学は、普遍性があり、私たちが生きていくにあたり論語どうように一つの知恵を与えてくれる。

私は、高校生のとき難病になり、人生を一つ捨てられた歩みから、病気のまま、神学校に入り癒されたので、先が無いと思っていた人生におまけがあったということで、「ほどほど」ということが性に合わないようになって、ついやりすぎることが多くなってきていた。しかし、やりすぎる人間からしてみても、「ほどほどに」というさじ加減がどんなに難しいかと思う。「すぎる」という生き方は簡単であるが、「ほどほどに」という生き方は、人生の達人しかできないと思う。

この空しい人生の日々に わたしはすべてを見極めた。善人がその善のゆえに滅びることもあり 悪人がその悪のゆえに長らえることもある。善人すぎるな、賢すぎるな どうして滅びてよかろう。悪事をすごすな、愚かすぎるな どうして時も来ないのに死んでよかろう。コヘレト7：16—17

自分を滅ぼさないためにも、「ほどほど」という知恵者の言葉を自分の心に刻み込んでいきたいものである。

(甘木日記)土) 日善幼稚園の1年生から六年生の卒園生の一泊キャンプ。甘木からも松崎保育園の先生、私の息子が助けてくださる。夜は在園児、保護者も含めて70名のバーベキュー。日) 暑い中をKさんは熊本に物資を届けにいかれる。これからも支援をみんなでしていきたい。暑い一週間の始まり。泊月) いつものように水を撒き、草をとる。芝生をSさんが刈ってくださる。泊火) 車で日善幼稚園に。水) 夕刻から甘木に車で来る。地震対策のためにととう車の運転を再開。木) 甘木教会、松崎保育園の移動中、広島原爆投下の日であって平和の特集がラジオから聞こえてくる。心にしみる声であった。金) 暑い中で。電車で水遣りに行く。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。

はぐちらない聖人（牧師）もいますが。土）暑い中でしたが卒園児の小学校1年生から6年生までの一泊キャンプ。元気に遊べました。久留米～福岡までバス、電車、地下鉄を乗り継いで科学館で一日遊び、夜は在園生と合流してお父さん会が用意してくださったバーベキューを楽しみ、温泉へと。賑やかなキャンプとなりました。職員も自主的に手伝い、ルーテル系の松崎保育園、東京から大森ルーテル幼稚園の職員、主任の息子さん、高校生ボランティアも手伝ってくださり大変繋がりを楽しみ感謝。バーベキューは、熊本地震もあったので、中止、延期といろいろと考えましたが、こういうときだからみんなが元気になって次への地震救援へとつながるようにとなればと開催しました。このとき、被災者の方を覚え、バーベキューのとき10年前に救援に熊本に入った医者さんから話を聞き、募金をしました。明日、松崎保育園の職員はキャンプが終わり、熊本・阿蘇に救援物資を届けにいきます。絆です。日）キャンプ最終日。早朝まで、大和牧師に任せ、甘木の礼拝へ。流石に体に堪えて引き返して久留米の役員会に行けず。老いました。息子を空港に信徒さんの車で送っていただき、今日は甘木で一泊。月）6時前に起きて、1時間半草取り、水やり。芝刈りにHさんが来て下さる。今日も信徒さんに支えられる。感謝。明日の水遣りのために一泊。火）地震に備えて、いつでも甘木～久留米間を行き来できるように車で移動する。甘木教会から久留米・日善幼稚園へ。諸事務。音楽が聞こえてくる。夏の祭典、そろばん踊り。踊り厄払いし、思いが熊本まで届いて、酷暑の中で被災されたみんなが守られて、元気づけられればと祈りをもって踊っている。水）風もあり、一日、いるだけの日善幼稚園での勤務。夕刻、甘木教会へ。夫婦で一泊。木）伝道する



るとき、いつも一緒に家内と朝、甘木教会から松崎保育園。「聖書の学び」、「子ども礼拝」に行く。松崎から甘木教会へ移動するその途中に昼食。別府、ブラジル、三河、静岡名古屋、東京、福岡といつも一緒に伝道した。これも、あと数年。感謝とお礼にもならないお礼をするためにちょっと贅沢をしてキリンビール・レストランのランチに行く。夏の青い空を見ながら、ブラジルの青い空と重なる。ブラジルで運転の苦手の私に代わって長男が生まれるまで70キロの山道を大きなお腹で運転してくれたし、次男が生まれる時も200キロ以上の離れた方の訪問ときに陣痛が起こったことを思いだした。よく一緒にここまで付いてきてくれた。日頃は口喧嘩ばかりしているが。今も息子二人が教会につながっているも妻のお陰でと手を合わせる。今日は平和について祈りを合わせた。金）酷暑の週。

